

連珠っておもしろい

九段 河村典彦

●第32回●

西村敏雄九段追悼

前回に引き続きまたしても追悼文を書く事になってしまった。本当につらいことばかりである。西村九段と言えば「呼手の西村」であり、12期までの名人戦の主役であったなど、実戦界での神様みたいな人であったので、その点については説明の要はないであろう。西村さんと初めてお会いしたのは、確か23年前の東西対抗戦の時だったと思う。私も京都連珠会でばりばりに実戦をしていた時だったので、恐れ多くも楽盤（指導局）を打っていた。浦月、花月の黒番であったが、定石を知らない人間だったので、こてんぱんであった。それでも全然めげずに「今度は白で」と白で得意の作戦もかけたりした。

あの無口な西村さんが「白で？」と怪訝な表情をされたが、それもそのはず、昔なら下位者が白を持つなどとは考えられなかったからだ。当時の私はそんなことに気を遣うより、強い人に作戦をかけたかった欲求の方がはるかに強かった。ただ、今でも下位者は上位者には黒でも白でも好きな方を打って構わないと思っ

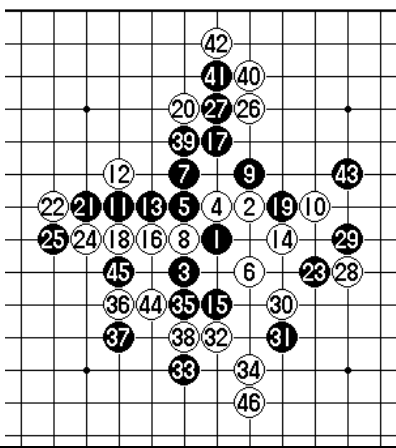
ている。さて、A級リーグでの対戦を調べてみると、七局の対戦であった。順に、

25期（87年）●黒斜月
26期（88年）●白斜月
28期（90年）○黒斜月
29期（91年）○黒銀月
30期（92年）○黒恒星
31期（93年）●黒明星
36期（98年）○黒瑞星
となつている。（勝敗、黒白は私から見たもの）これを見ると、ほとんどが私の黒番である。西村流の呼手は味わえなかつたが、随所に

その片鱗は味わうことができた。まずはこの中から何局かご紹介しよう。

黒 六段 河村典彦
白 九段 西村敏雄
○46以下白勝ち

最初の対局になった第25期A級リーグから。当時は桂間連握りであり、連の黒番となった。



昔から斜月は人気があつたが、当時は黒7でトビ三を打つのが流行であつた。これに対抗策を練つてきた西村さんであった。九州は関東や関西とは離れているが、流行には一番敏感な地区だという印象がある。そ

れもこれも、西村さんの存在が大きいのだと思つている。A級で当たる九州地区代表の方々は、流行の作戦になりやすい。

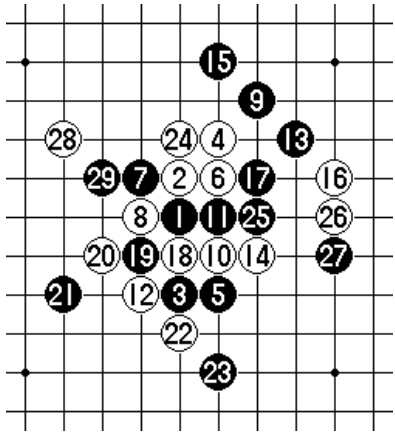
さて、この年の対策は白10であつた。この手は黒の動きをけん制する積極的な手だ。対して私の方もけん制返しと黒11と打つたが、なかなか良かったようだ。黒13が味良い手で、この手を打つて何とかなると思つた。しかし、白14と引かれ、ここで手が無ければおかしくなる。しかし、ここで私は局面を悲観していたように、黒17と守りに行く手を打つてしまった。ここは18と引いていれば勝ちがあつた。白18に止められては、黒の勝ちはなくなつた。しかし、西村さんもここから無理には勝ちに行かず、白番らしく着実に止められた。こうなると黒は満局を狙うしかないが、こういう中盤戦で勝ちを掴む能力が当時

はまだ（今も）備わって
なかつたため、とうとう白
46と絶妙の呼手を打たれ、
そのまま押し切られてしま
った。

黒勝九段 河村典彦
白 九段 西村敏雄

● 29以下黒勝ち

続いて、最後の対局とな
った98年のA級から。瑞星
稲妻での研究合戦となった
一局。この形は既に黒勝ち
と結論付けられていたが、
西村さんは白勝ちとの研究
だったのだろう。お互いの
研究を披露する場となった。



西村さんにとって不利だ
ったのは、研究を確認する

場がA級しかなかったこと
だろう。いくら研究してい
ても、実戦で確認しないと
どこに抜けがあるかわから
ない。白28まではすらすら
と進んだが、私の黒29を見
て西村さんは固まってしま
った。研究漏れであったこ
とが私には痛いほどわかっ
たが、通常ここは一路上が
普通の防ぎであるため、こ
の手は漏れやすい。私はこ
の手を事前に見つけており
自信を持ってはいたが、そ
の後もうまく打つ事ができ
ず、会心の一局となった。

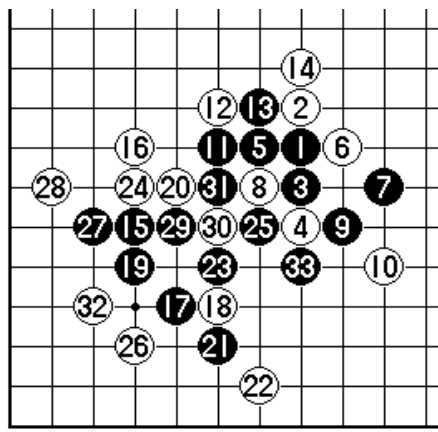
西村さんは、もう一人の
巨人である磯部九段と比較
すると、磯部さんが中盤以
降に力を発揮する実戦タイ
プに対し、西村さんは序盤
の研究で勝負する速攻型と
言えるだろう。その西村さ
んにとって研究負けは悔い
の残る一局であったと思う。
最後に、華麗な西村さん
の呼手を見ていただこう。

★ 第13期名人戦A級リ
ーグより

黒勝九段 西村敏雄
白 六段 中村 茂

● 33にて白投了

第13期と言え、中村時
代の幕開けでもあった。中
村六段が6.5勝1.5敗でA級
リーグを制したが、西村さ
んには歯が立たなかった。
松月定石は当時も難解で
あったが、黒11の九州流は
中村九段の注文にはまると
見た西村さんの変化だった
のだろう。白14に対し当然



黒は左辺に向かう所だが、
黒15、さらに17の呼手が見
習うべき呼手である。こう
いう手を打たれては、いく
ら中村氏としても脱帽する
しかないだろう。以下簡単
に押し切っている。

翌年には西村さんは中村
名人に挑戦し、見事名人位
に返り咲いている。今でも
最年長の名人という記録は
破られていない。（そのう
ち破られるだろうが）

その翌年には中村氏に名
人を奪回されはしたが、ま
たその翌年には再挑戦し、
3年連続中村、西村戦が実
現している。中村時代とい
う大きな波には抗えなかつ
たが、もし中村時代が来な
ければ西村時代が当分続い
ていたことだろう。

西村さんは本当に連珠が
好きであった。そして研究
も。もつともつと西村さん
と連珠が打ちたかったが、
それもかなわぬ夢となって
しまった。合掌。